

第 3 回館山市議会定例会会議録

(第 4 号)



1 平成7年9月21日（木曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1 番 辻田 実

3 番 三上 英男

5 番 忍足 利彦

7 番 斉藤 実

9 番 島田 保

11 番 秋山 光章

13 番 脇田 安保

15 番 山崎 雅己

18 番 日下 君敏

20 番 神田 守隆

22 番 榎本 春光

25 番 飯田 義男

2 番 本橋 亮一

4 番 小幡 一宏

6 番 鈴木 順子

8 番 増田 基彦

10 番 宮沢 治海

12 番 植木 馨

14 番 永井 龍平

16 番 鈴木 忠夫

19 番 川名 正二

21 番 山中金治郎

24 番 福原 勤

1 欠席議員 2名

17 番 岩村 勝弘

23 番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 庄司 厚

収入役 川上 義雄

総務部長 神子 純一

経済環境部長 小沼 晃

水道課長 谷貝 実

助役 小幡 清之

企画部長 永野 修

市民福祉部長 渡辺 富雄

建設部長 三平 孝司

教育委員会  
教 育 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

書記 四ノ宮 朗

書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲

書記 安田 仁一

書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第4号）

平成7年9月21日午前10時開議

- 日程第1 {
- 認定第 1号 平成6年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
  - 認定第 2号 平成6年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
  - 認定第 3号 平成6年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
  - 認定第 4号 平成6年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
  - 認定第 5号 平成6年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
  - 認定第 6号 平成6年度館山市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
  - 認定第 7号 平成6年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
  - 認定第 8号 平成6年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

日程第2 議案第53号 館山市教育委員会委員の任命について

開 議 午前10時08分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数22名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第1、認定第1号乃至認定第8号、平成6年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくくださるようお願い申し上げます。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 通告いたしました6点についてお尋ねをいたします。私の質問は決算の事項別明細書により行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

まず第1点は、一般会計の歳入についてであります。17ページ、固定資産税の現年課税分、収入済額24億 4,990万 7,129円、次に19ページの都市計画税、現年課税分、収入済額5億 2,870万 175円に関連をしてお尋ねをいたします。市民税は、対前年度比較しますと大幅な減少となっております。個人所得、法人所得とも減少しているためと思われます。ところが、固定資産税や都市計画税は大幅な増税となりました。このため、滞納額もふえております。固定資産税や都市計画税は、もともと所得や収入にかかわりなく課税されるために、その担税力において問題があるという税であります。対前年度で比較しますと、課税標準が大幅にふえているわけですが、いわゆる評価替えに伴うものがそのうちの程度を占めておりますか、課税標準の大幅増の内訳、内容について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、宗教法人の所有する境内建物及び境内地については、固定資産税も都市計画税も非課税とされています。オウム真理教の犯罪が明らかになるとともに、この教団が宗教法人法の保護を悪用し、悪事の隠れみのかとしていたことが明らかになり、宗教法人法の見直し論議がされていることは御存じのとおりであります。宗教法人への特典の1つが非課税措置の問題でありますが、具体的に館山市ではこの非課税の措置に係る宗教法人は幾つありますか、またその非課税による市財政への影響額はどの程度になるものと考えられますか、お示しをいただきたいと思います。

次に、固定資産税や都市計画税の課税をめぐって、どの土地やどの建物についてどのように課税されているのか、その明細はつけられておりません。

このため、何十年も他人の土地の固定資産税を払っていたとか、本来道路として非課税とすべきなのに課税されていたとかということが全国各地で起きているわけでありましたが、これらはいずれも課税明細が本人に通知されていないということが大きな原因と考えられます。既に課税明細をつけている市町村もございますが、この点について市ではどのように考えていますか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、歳出についてお尋ねをいたします。85ページです。上水道費中の南房総広域水道企業団出資金として9億3,430万円が支出されておりますが、これに関してお尋ねをいたします。南房総広域水道に館山の出資金は、一昨年の見直しで総事業費580億円が780億円に増額になり、市の出資金見込みも35億円から53億円に増額になりました。今後の市の財政運営にとっても、この財政負担は大きな問題となっております。同時に、多くの市民にとって、これを機に水道料金の大幅な値上げにつながるのではないかと大変心配がされているところであります。もともとことしの夏までに給水する予定が1年延ばしとなり、来年の7月までにはこの南房総広域水道の水が市営水道や、あるいは三芳水道には来る予定になっております。南房総広域水道の料金はトン当たり220円になるように助成するというのがもともとの県当局の公式の見解で、県議会でもその旨の答弁がございました。南房総広域水道計画をつくる際の県当局のいわばこれは公約で、確実に実行されると考えられますか、いかがお考えでしょうか。来年からの給水単価の見通しと、その際の県の企業団への財政援助措置はどのようになるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、農業振興費についてお尋ねをしてまいりたいと思います。88ページです。館山市農協は近隣の農協と合併協定に合意したとの報道がされました。近隣町村はそれぞれ町の事業として行っている事業が、館山市では農協への委託事業として行われている形態が多いように思います。合併とともに、こうした委託先もこれまでの市農協でということにはいかなくなることも多いと思うのであります。市の委託事業について見直しが必要ではないかと思うのですが、次の事業についてどのようにお考えか、お聞かせをいただきたいと思います。

と思うのであります。

88ページの中にあります廃プラスチック処理事業補助金60万円を支出したわけではありますが、市の経費負担はいわゆる処理実費だけかと思いますが、これは近隣町村の実情に比べてどうですか、お聞かせをいただきたいと思うのであります。

次に、89ページであります、畜産業費の家畜防疫事業補助金として 100万 500円支出をしておりますが、いわゆる豚コレラの予防注射事業の補助をしたとのことですが、この事業はもともと市で実施していた事業だったのではないのでしょうか。また、この事業の近隣町村の実施状況はどうでありますか。

次に、91ページであります、農地費の中であります、自然休養村管理センター運営補助金として97万円が支出されているわけではありますが、花摘み園や売店の経営を農協に委託して行っているものというふうに思うのであります、市のイメージとして、花を重視しているとはとても現在の実情からは言えないのではないかとと思うのであります。自然休養村管理センターのあり方についてどのように考えておられるのでありましょか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、91ページの同じく農地費の中にあります安房中央土地改良区補助金 200万円についてお尋ねをいたします。安房中央土地改良区の水源となっています丸山中央ダムの上流域に嶺岡カントリーというゴルフ場が計画をされております。館山市内に計画されていたゴルフ場計画は、いずれも事前協議終了から3年以内に開発許可を得られない計画は取り下げたものとみなすとの規定により取り下げになりました。ところが、嶺岡カントリーは、やむを得ない事情があるとしてこの例外として、さらに来年5月までの1年間の猶予期間の延長が認められました。しかしながら、安房中央土地改良区の組合員の中から、安房中央ダム上流部にゴルフ場ができるなどということはとんでもないことだ、受益者としてゴルフ場開発に同意できないとの声が上がっております。環境アセスもあり、あと1年足らずで開発許可まで進めることは現状からは至難のことと思います。現在この嶺岡のゴルフ場開発計画は大

変際どい時点に来ていると考えられます。こうした事情を踏まえて、館山市としては、開発に際しては、中央土地改良区の受益者である市内の農家の方々が被害をこうむることのないよう、ダムの保全措置に万全を期すよう求めるとともに、万が一の被害に対しては、必要な損害補償ができるような担保措置が求められるのではないのでしょうか。安房中央ダム上流に計画されているゴルフ場計画についていかがお考えか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、105ページをお開きください。都市計画費中の公園費に関連してお尋ねを申し上げます。さきの行政一般質問で宮城の赤山地区の地下ごうについてお尋ねをいたしました、この地下ごうを含む土地3.12ヘクタールは宮城都市公園地域になっていて、しかもその約3分の2は市所有の土地で、一部民有地を除いて残りは大蔵財産ということでございました。この宮城公園は、1949年、昭和24年に館山運動場という名前で公園指定され、1950年、昭和25年に市が大蔵省から土地の払い下げを受けたものであります。現在館山市内には都市公園が9カ所指定されておりますが、その開設公園面積の進捗率は93%に達しておりますが、宮城公園だけは55.7%と、大変立ちおくれたままとっております。もともと宮城公園は、そもそもは運動公園として計画されていましたが、昭和53年に館山運動公園が現在地に計画指定されるに伴い、これまでの運動公園から宮城公園と名称変更したものであります。しかし、具体的な計画はなく、結果的にプールをつくって以降45年間にわたってこれといった計画もないままに整備されてこなかったのではないのでしょうか。この経過について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、平和祈念公園として、地下ごうの見学コースをつくる等、整備計画をつくってはどうかとさきの行政一般質問で提案したところでありますが、この宮城の地下ごう、地下要塞について調査するお考えがありますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、121ページをお開きいただきたいと思います。中学校費中の学校建設費、房南中学校校舎等改築工事請負費3億7,095万円に関してお尋ねをいたします。房南中学校校舎建設に伴う備品等整備推進についてということで、



1,000万円を目標に、1世帯1口5,000円で、何口でも可として寄附金の募集を進めております。寄附金集めの理由は、備品整備推進期成会の趣意書によれば、新校舎建設に伴う備品等の充当はほとんど見込まれていないのが実情としているわけであります。具体的な期成会の購入計画では、多目的室、会議室用の机、いす、応接セット等の管理備品、記念樹の移植、造園等の移転に係る費用、部活動等に係る備品——吹奏楽、柔剣道、野球等、さらに図書室の充実に充てるとされております。学校をよくしたいという地元の方々の熱意は大変わかるのでありますが、本来そうした備品等の整備は市の予算で賄うべきもので、寄附に依存すべきではないと思うのであります。国の通達でも、一般財源の不足を寄附金に求めてはならないと戒めているところでありますが、この寄附についていかがお考えでありますか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

認定第1号、平成6年度一般会計決算の歳入に关します御質問の大きな第1、固定資産税及び都市計画税についての第1点目、課税標準についての御質問でございますが、土地につきましては、平成6年度の評価替えによるものと地目変更によるものでございます。また、家屋につきましては新增築によるもの、償却資産につきましては法人の設備投資の増加によるものでございます。

次に、第2点目、宗教法人の非課税についての御質問でございますが、平成6年度、館山市における非課税対象の土地及び家屋を所有する宗教法人数は203であり、非課税の範囲は、地方税法第348条の規定により、宗教法人が専らその本来の用に供する境内建物及び境内地でございます。

次に、第3点目、課税明細についてでございますが、館山市では平成9年度から送付する予定で準備を進めております。

次に、歳出に关します大きな第1、上水道費の南房総広域水道企業団出資金についての御質問でございますが、まず来年からの給水単価の見通しにつ

いてでございますが、南房総広域水道企業団運営協議会経営委員会に料金問題特別部会を設置し、料金体系及び単価について検討中でございます。

次に、県の企業団への財政援助措置についてでございますが、この用水供給事業に対しまして、県民の負担格差是正の観点から特例の県費補助を受けておりますが、今後とも構成団体一丸となりまして引き続き財政援助を要望してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の農業振興費についての御質問でございますが、委託事業につきましては、自然休養村管理運営業務のみでございます。

なお、館山市農協との関連事業につきましては、継続の方向で協議を重ねているところでございます。また、自然休養村のフラワーライン入り口の花摘み園につきましては、各園芸組合の花摘みが3月よりオープンするまでのつなぎとして実施されているものでございます。

大きな第3、農地費の安房中央ダム上流に計画されているゴルフ場についての御質問でございますが、安房中央ダムは、農地保全の観点からも大変重要な水源と認識しております。計画されておりますゴルフ場開発につきましては、今後ともダム機能の低下がないよう関係団体に要望してまいりたいと考えております。

大きな第4、都市計画費、公園費についての御質問でございますが、具体的な公園整備計画につきましては、現在考えておりません。また、戦跡の調査につきましては、今後の課題として考えております。

次に、大きな第5、中学校費の問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 次に、大きな第5、中学校費の房南中学校校舎改築工事に係る各種備品等の整備についての御質問でございますが、各学校における教材並びに管理等の備品の整備につきましては、館山市において賄っております。房南中学校につきましては、従来の備品のほかに、新校舎の仕

様に合わせた備品の整備を行いました。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） まず第1点、固定資産税の関係でありますけれども、課税標準がふえた理由というのはわかっているんですけれども、それが、評価替えがどれくらいその中でウエートを占めるのか。地目変更に伴ってこれがふえるというのはあるんですけれども、しかし実際課税標準がふえた、土地の課税標準がふえたのは、大体八、九割は評価替えに伴うものだ、こういう認識をしいものかどうか、そういう具体的な内容をお聞かせいただきたいと思うんです。

それから、宗教法人は203ですか、非課税措置になっているということでありますけれども、この宗教法人の境内建物あるいは境内地、これは非常に広い概念です。非常に広い概念で、宗教上の施設ということで、田んぼから山から、かなり広い概念でこの境内地になろうかと思うんです。いわゆる礼拝地という極めて限られたものではありませんので、したがってその内容を固定資産という観点で見ますと、かなり影響額も大きいのではないかな、こういう気がするわけで、その辺の認識はどうなのか。実際どれくらい非課税になっているのかという金額的な推定というのは一切できないということなのかどうなのか。だとすれば、そういうことでお答えいただきたいと思うんです。

それから、課税明細については平成9年度から送付するということですから、わかりました。

上水道の関係であります。依然として現時点において料金の体系あるいは単価について検討中だということだと、料金の体系をどうするかということもまだ煮詰まっていない。来年の7月には給水する予定だということになりますと、タイムリミットはもう過ぎているんじゃないかなという気がするんですけれども、大体この料金体系、あるいは具体的な料金の決定の時期、こういう問題はどのような時期に考えられているのか。格差解消の努力中だ、格段の財政援助をというわけですが、今の段階でそういう答弁だと、

本当に心もとないといえますか、ある程度の見通しが立って現在議論ができなきゃいけないんじゃないかなという気がするんですけども、残念ながら依然としてその料金体系や単価を算定する前提になる県の財政援助措置の内容がまだ明らかにならないということなのか、そういう認識だということなのか、お聞かせをいただきたい。

特に具体的な問題では、一昨年の出資金の見直しの中では、いわゆる南房総広域水道の水源費については、今後物価の上昇なり、さらに工事の上での上昇ということで、いわゆる大多喜ダムの建設にかかわる負担とか、あるいは長柄ダムからの送水管布設にかかわる諸費用、こういうものは今回は見直しをしない。しかし、今後見直しが必要になるということを言ってこられたわけで、これは約 200億円 — 198億だったかな、200億円ということで見込まれていた数字だと思うんですが、これは現時点でもそういうふうと考えていいのでしょうか。

それと同時に、料金体系の問題と関係があるわけですが、今後の大規模開発の事業者、館山市内に大規模開発の — 一定規模以上の開発事業者、水を大量に使うという事業者に対しては開発負担金というようなことを考えていくんだというお考えがこれまでも示されていたんでありますけれども、具体的話ではどのようになっているのか。今回のこの広域水道の料金体系との議論で、広域水道の料金体系は料金体系なんですけれども、それを受けての市の態度、体制として、その辺をどうしていくのかという議論はどういうふうに進めておられるのか。

それから、館野、九重などの未給水地区への配水管の布設工事が進められているわけですが、個人負担となるいわゆる給水管の工事については 400万円あるいは 500万円とかというかなり高額な負担がかかるということで、これまでもこの議会の場で再三論議をされてきたわけですが、そういう問題についてどういうふうに現在論議がされて、個人の負担解消という方向に進んでいるのか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

それから、もともと平成12年度にこの水道事業 — 広域水道は日量5万 5,000トンの使用見込みが前提としてつくられているわけですが、いわ

ゆるこの南房総地域の水量の不足分ということから考えると、これはかなり過大なものであることは、現在ではもはや明らかではないかと思うんです。大幅な見込み違いということは認めざるを得ないんでないかなと思うんですが、市営水道では1万2,000トンですか、この水を——1日当たりということではありますが、確かに市営水道は今水量が不足して、ことしも、あるいは去年も水不足ということで、水が欲しいことはもう本当にそのとおり、私もそのとおりだと思うんですが、同時に1万2,000トンといいますと、非常に大きな——現在の倍近い水量になるわけですから、実際の見通しとしては、これは明らかに見込み違いと言わざるを得ないんでないかなと思うんですが、この辺の認識はどのようになっておりますか。

次に、農業振興費に関してでありますけれども、廃プラスチックの処理費は、市が補助している60万円というのは、基本的な考え方としては処理実費というふうに理解をしているんですけれども、そういうことなのかどうか。実際には、これにかかわる運送経費とか、あるいは収集経費とか、それぞれの経費がかかるわけで、それらは農業者あるいはそうした販売業者の負担ということでされているようでありますけれども、近隣ではそういうことはないというふうな話も聞いているわけで、実際近隣の町村と比べて館山市だけそういうような負担があるのかどうか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

次に、土地改良区の補助金に関してであります。中央ダムのこのゴルフ場、上流域のゴルフ場問題であります。農地の保全上大変重要な問題だと認識をしているということで、大変よく市の考え方はわかりましたけれども、関係団体に要望もしていくということでもありますけれども、1つは、農家の方々がこのダムの問題によって被害をこうむらないように万全の措置をとるという問題、それともう一つは、万が一の被害があった場合には、それに対するきちんとした被害補償ができるような担保措置をきちんとしていくこと、これではないかと思うんです。これは実際問題としては、ゴルフ場業者が事故があった場合に損害を補償しますよと言っても、あのダムが埋まってしまうような事故が起きた場合に、これを補償するということは事実上不可能だと

いうふうに思うんです。となると、泣き寝入りということになりますので、そうすると、こういうゴルフ場の開発許可をした県の責任という問題が問われるということになるのかな、だれがそれを補償してくれるのかなという問題になってくるわけですが、そういう点についてどういうふうにお考えになりますか。絶対あってはならないことではありますけれども、万が一ということに対するきちんとした措置を考えるべきじゃないかなと思います。

それから、公園費については、今後の課題ということなんで、そういうことでお考えいただきたいと思います。

それから、中学校のいわゆる寄附金にかかわる問題でありますけれども、市の御説明ですと、新校舎にかかわる備品類については市で措置をしている、こういうことでありますから、となりますと、この趣意書の中では、財政逼迫の折、新校舎建設に伴う備品等の充当はほとんど見込まれていないのが実情です、こういう市の措置に対する見解が示されていて、これに基づいて寄附が地元で集められているんですけれども、これはちょっと認識が違っているというふうに理解をしなければならぬと思うんですが、そういうことでよろしいかどうか。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） ただいまの2点の御質問についてお答え申し上げます。

1点目は、固定資産税、都市計画税の課税標準が増額しているその内訳についてという御質問でございます。まず、土地につきましては、評価替えによるものが約7割、地目変更によるものが約3割。家屋につきましては、646棟、床面積で言いますと9万1,000平米の新增築分でございます。

2点目の宗教法人の非課税についての影響額の問題なんですけれども、現在地方税法の348条に基づきまして非課税処理を行っているところでございます。これにつきましては、宗教法人法の第3条に規定する――先ほど神田議員のおっしゃいました本殿とか、あるいは拝殿とか社務所というところにつきましては、現在非課税にしているわけでございます。その非課税物件につ

きましては、事務経費といいますか、そういった問題もありまして、現在のところは評価をしておりません。そういうことで、影響額をつかむのは現状では困難である、こういうふうに認識しております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総広域水道の料金の決定時期ということでございますが、今特別部会で秋に結論を出そうということで急いでいるわけでございますが、現実的にもっと急がなければいけないということは考えておりますが、今のところまだ決まっております。1部料金制にするのか、2部料金制にするのか、あるいは2部料金制にして固定費をどうするのかとか、いろいろな問題を抱えておりまして、何度か部会は開いておるんですが、今のところまだ決定していない状況でございます。それに伴う県の援助措置でございますが、折に触れ関係市町村で県にお願いしているところでございまして、先ほど議員おっしゃいましたとおり、事業費改定するとき、それに対する援助等を受けられることになったわけなんです、その後、具体的にどんな援助かという段階にはまだ至っておらない状況でございます。

それから、水源費の関係でございますが、大多喜ダムは当初の予定より大変おくられているわけなんです、今のところまだ事業費の見直しがされておられません。また、房総導水路につきましては、過日精算が行われたということを知っておりますが、それが出資金に与える影響がどうなるかは、国の補助金がどうなるか、そういうことも影響しますので、今企業団で試算していると伺っているところでございます。

次に、開発負担金の問題でございますが、開発負担金は、新しく大規模な水量を必要とするものにつきまして、水源費等の負担を――従前の利用者に負担を与えないようにということの趣旨でございますが、現在――一番最後に水量の問題も出ましたが、水量を多く使っていただく必要性も出ている現段階でございますので、今後の大規模な開発等の時期を見きわめていきたいと考えております。

次に、3次拡張に伴います館野、九重地区の個人負担の問題でございます

が、本管は市の事業で行っているわけで、それから枝管が — 相当民家が離れておりまして、先ほどおっしゃいましたように 400万、もっとかかるような家庭も出てきているわけで、あの地区の方は、水質の悪い中、長い間給水がおくれているわけでございまして、現在お住みになっている方に限りまして、50万を限度に負担していただいて枝管を — 50万のほかに加入者分担金とか、自分の宅地内はありますが、枝管として50万を負担していただいて施工しようということで進めているところであります。

それから、最後に広域からの受水の水量が過大ではないかという御指摘でございまして、確かに平成8年度から受水を受ける近い時期には見込みほど必要なくなるだろうとは考えておりますが、大きな事業でございまして、館山市は将来的にはまたいろいろなことでふえるんじゃないかならうか、こんなふうに考えるところであります。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、最初の廃プラスチックの処理の御質問についてお答えをいたします。館山市が補助しております60万円、これは御質問のとおり処理費用でございまして、運搬ないしは収集等の経費につきましては生産者ないしは販売業者の負担ということでございます。これは、館山市廃プラスチック対策協議会というのがございまして、その中で事業が行われている、こういうことでございます。

それから、第2点目の中央ダム上流に計画されておりますゴルフ場についての御質問でございますが、事前協議が終了しているというふうに私どもも伺っているわけでございます。当然開発基準に基づきまして審査をされ、被害等の発生防止についても十分議論されているというふうに私ども受けとめているわけでございますが、事業の進捗に合わせまして関係機関と協議をして、十分な対応をしてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 議員のおっしゃるとおりに、認識の差として理解



しているとお説のとおりでございまして、私どもといたしましては、関係者に対しまして注意を喚起したところでございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 何点かまたお尋ねいたします。

きのうでしたか、基準地価がまた下がりましたという報道がされたばかりなわけで、土地の評価額はどんどん、4年連続ですか、下がる。しかしながら、固定資産の評価額はどんどん上がる。これは一体どうなんだというのはなかなか説明しづらいんですけれども、非常に矛盾を持っているかと思うんです。当然住民の気持ちとしては、評価額が下がったんだから、土地の固定資産税は下って当たり前。ところが、評価額が上がってしまうというのは、どういうふうにこれを考えるんだということなんです。その辺についてどういうふうにお考えになるのか。この固定資産税というのは、収入があらうがなかろうが、所得があらうがなかろうが、そういうこととは関係なく課税されるものでありますから、余裕のある方にとっては安いということなんですけれども、そうでない方にとっては非常に酷税といいますか、厳しい税金になるものですから、非常にこの辺はシビアに物を考えていただかなきゃならぬと思うんですが、どういうふうにその辺をお考えになりますか。

次に、宗教法人に対する非課税措置についてでありますけれども、影響額は把握できない、どのくらい宗教法人ということをやっているのかわからないということなんですけれども、宗教法人、203ですか、あるということで、建物は神社仏閣——1億も2億もするような建物があったりとか、いろいろたくさんあるかと思うんですけれども、建物は大体宗教上の施設というふうに思われるし、そういうことは神様、仏様のことですからどうかなと思うんですけれども、土地についてはどれくらいの非課税になっている面積があるのか、これくらいはわかるんでないか。その個々の土地の評価は、町場にあるものは、周辺からすると、かなり評価額が高いというものもあるだろうし、いろいろだと思うんですけれども、ですから、その評価はしていないんでしょうから、わからないということですから、しかしどれくらいの面積があるかということはおわかりではないかなと思うんですが、資料があればお示し

いただきたいと思います。、なければ、その辺は調査できるかどうかということ。

それから、南房総広域水道の関係でありますけれども、房総導水路の精算は終えた。もちろん、これに伴って国の負担がどうなるかとか、いろんな問題があると思うんですが、従来の負担割合でストレートに考えた場合は、これはどれくらいふえるというふうに見なければならぬのか、どれくらいの規模で — この水源費の増額見込みということになろうかと思しますので、その辺の数字をお示しいただけたらと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） ただいまの2点の御質問についてお答え申し上げます。

まず1点目の、土地は4年も下がっているのに、固定資産税が上がるのはどうなんだ、どういうふうを考えるんだというお話、御質問でございますけれども、御承知のように、固定資産税につきましては、3年に1回、3年に1度といいますか、評価替えが行われるわけでございます。直近の平成6年度の土地の評価替えは、地価公示価格の7割を目途として、評価の均衡化、適正化を図るという見地から実施された。そういう中で、特に最近の地価動向に対応しましては、これまでの負担調整措置に加えまして、さらに平成7年度は臨時的な負担調整措置が講じられた、こういうことで御理解をいただきたいと思ひます。

それから、2点目の宗教法人に対する非課税の影響額に絡みまして、家屋についてはいろいろな問題もあるということで、土地についてはどの程度なのかの御質問ですけれども、筆数としまして、現在私の手元にありますのが約600筆でございます。それで、地積としましては38万平米。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総の関連の房総導水路の事業でございますが、当初、昭和45年度から平成6年度までの総事業費が1,050億円予定され

ておりましたが、今度の精算によりまして 1,146億 5,000万になったという話は聞いておりますが、南房総に関連する出資金等の影響は、先ほどお答え申し上げましたとおり、国の補助金の関係、あるいはこれからの事業費、これらの関係を今企業団で試算しているということで話を聞いている段階でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で20番議員神田守隆君さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第8号、平成6年度各会計決算につきましては、9人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

3 番議員	三上 英男さん	4 番議員	小幡 一宏さん
6 番議員	鈴木 順子さん	7 番議員	斉藤 実さん
11 番議員	秋山 光章さん	13 番議員	脇田 安保さん
16 番議員	鈴木 忠夫さん	18 番議員	日下 君敏さん
22 番議員	榎本 春光さん		

以上9名を指名いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました9人の皆さんを決算審査特別委員会委員に選任することに決まし

た。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長長の互選を行いますので、御了承願います。

#### 議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第2、議案第53号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（辻田 実君） 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

◎議長（辻田 実君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第53号館山市教育委員会委員の任命について、提案理由を御説明申し上げます。

館山市教育委員会委員中、高橋博夫さんが平成7年9月30日をもって任期が満了いたしますので、引き続き高橋さんを適任と考え、任命いたしたいと存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 説明は終わりました。

#### 質疑応答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

### 討 論

◎議長（辻田 実君） これより討論を行います。

討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

### 延 会 午前11時04分

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明22日から27日まで委員会審査のため休会、次会は9月28日午前10時開会といたします。その議事は、議案第50号乃至議案第52号、認定第1号

乃至認定第8号に係る各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは9月28日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第8号

1 議案第53号